

# 進

三年

画数 11  
筆順 一 竹 隹 進  
オシ シン  
クシ すすむ じめる

成り立ち



鳥の形をあらわした「隹」と、「道を進む」の意をあらわした「進」とを組み合わせて作った字です。

鳥はかならず前の方にとんで、けっして後ろにしりぞくことはありません。それで、鳥のように「前へ前へとすすむ」ことをあらわしたものです。

「〇〇がすすむ」→「〇〇をすすめる」  
また、「世の中が進む」ことは「世の中がよくなる」となるので、「よくなる」といういみにつかわれます。

「進」をシンニヨウというのは「進退」の意味、つまり、「進」という字に使われている「進」という意味の言葉である。遠は、「とりまく」という意味の字で、「進」や「進」のように左方から下方をとりまく形の名称である。

使い方

▽たび人が、道を進んで行くと、いつしか、日はとっぷりとくれてしまいました。たび人は、どこでねむろうかと、しあんしました。

▽ぼくの時計は、いつも少しづつ進んでしまいます。それで、朝おきると、いつも五分もどして、正しい時刻にあわせなければなりません。

熟語例

▽進歩(よい方に進んで行くこと。よくなること。「科学の進歩は、目ざましい」などと、つかいます。)

▽前進(前へ進むこと。㊦「後退」。「ぼうしとりゲームで、赤組が前進すると、白組は、ぼうしをおさえながら後退しました」などと、つかいます。)

▽進退(進むことと退くこと。「進退きわまる」といえば「進むことも退くこともできない、ぎりぎりのところに来る」といういみです。)

▽日進月歩(たえず、どんどん進歩すること。「日進月歩の世の中だから、つねにべんきょうしなければいけない」などというふうに、つかいます。)

使い方

▽わたしは、大きくなったら、世の中のためになりたい。とをしたいと思います。かんごふさんとか先生になるのがゆめです。

▽ぼくは、世界中を旅行してみたいと思います。広い世界には、ぼくがまだ見たことのない、おもしろいものが、いっぱいあるでしょう。いつか世界旅行をするのが、ぼくのゆめです。

熟語例

▽世界(人がすんでいる、この地球全体。また、あるかざられた、同じしゆるいの人々の社会のことともさします。「政治の世界へとびこむ」などというふうに、つかいます。)

▽世間(世の中。また、世の中の人々のことをいいます。「世間のひょうばんになる」などというふうに、つかいます。)

▽世相(世の中のような。世の中のありさま。「かんばしくない世相になったものだ」などというふうに、つかいます。)

# 世

三年

画数 5  
筆順 一 十 廿 卅 世  
オン セイ・セ  
クシ よ

成り立ち



「十(1年36)」という字を三つかさねて「三十」といういみをあらわした字です。人は、三十年たつと、自分の親の年になりますので、「人が生まれて親になるまでの年だ」という字であらわしたものです。人は生まれて二十二年間は親にやしなわれますが、それから三十二年間は親に代わってはたります。その三十年を「一世代」といいます。その時は、五十さいになり、自分の子が二十さいになっているので、家のしごとを子にまかせます。これを「世代こうたい」といいます。

今では、「人が生まれて死ぬまでの年代」といういみにもつかわれます。㊦「一世一代」。また、「人のすむ社会」のいみにもつかわれます。㊦「世間、世界、世相」。